

府立高校改革について

丹後地域の府立高校の在り方に係る検討状況について、下記のとおり報告します。

平成29年7月13日

教育長 橋本 幸三

記

1 情報の発信

平成32年度からの実施に当たり、それ以前に高校に入学する生徒にも在校生としての影響等があることから、検討状況や内容についてより丁寧に説明していくため、丹後地域の中学生や保護者に向けて、本年1学期終業式までに進路選択の参考となる資料を配布する。

(参考) 基本的な方針

1 学舎制の導入

多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するという高校の役割を果たすため、一定の生徒数、教職員数を維持するとともに、通学の利便性にも配慮して、現在の校舎を活用する学舎制を導入する。

[学舎制導入校] 宮津高校と加悦谷高校、網野高校と久美浜高校

2 京都フレックス学園構想に基づく学校づくり

各分校での取組を継承しつつ、その機能を集約して教育内容の充実を図るため、現峰山高校弥栄分校の校地において、宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の3校を統合し、個々の生徒のニーズに応じた柔軟な教育を行う京都フレックス学園構想に基づく学校づくりを行う。

3 「地域創生教育推進プログラム」の実施

将来の丹後地域を支える人材を育成するため、府北部地域の振興に参画している府内の大学や特色ある取組を行っている他府県の大学、地元市町、企業など関係機関と連携し、広く丹後地域のことを学ぶ教育活動を丹後地域の全ての府立高校において実施する。

4 実施時期

平成32年度(平成29年度から具体的な検討・調整等を進める。)

2 丹後・与謝の高校再編問題を考える会からの要望について

同会提出の「丹後地域での『学舎制の導入』『分校統合・フレックス化』案の撤回を求める丹後与謝統一署名」について、6月29日付けで新たに550筆追加提出(計1,915筆提出)

**丹後地域での「学舎制の導入」「分校統合・フレックス化」案の撤回を求める
 丹後与謝統一署名**

京都府教育委員会は、平成28年度の小学6年生が高校に入学する平成32年度から新たな制度を導入しようとしています。その中心は網野高校と久美浜高校、宮津高校と加悦谷高校をそれぞれ1つの高校にまとめるという「学舎制（キャンパス制）の導入」と、弥栄と間人と伊根の各分校を1つにまとめ、フレックス学園をつくるという「分校統合・フレックス化」です。

府教委が28年9月に実施し、4千名近い保護者が回答した「アンケート」では、生徒数減少を理由にした「現在の高校の在り方を変えていく」を「必要」と答えたのはわずかに19.4%、「今後の方向性について」は「本校のまま継続」が最も多く32.4%、次いで「統廃合」25.1%、府教委が推し進めようとする「学舎制」は16.9%でした。また「丹後地域の府立高校に必要なと思う教育内容」を問う設問には「普通科教育」が84.8%、「総合学科」41.7%、「農業教育」40.5%などになっていました（複数回答）。この結果からも「現在の府立高校を維持し教育の充実を図ること」「普通科教育を充実させること」が多くの保護者の声であることが示されました。

また、京丹後市議会と与謝野町議会は、高校再編について「地域住民の声をしっかり聴くこと」「保護者や住民に丁寧な説明をすること」「日程を優先させずに、地元自治体との連携を十分に図ること」を内容とした意見書を採択し、府教委に提出しました。

11月に私たちの会が主催した「高校再編見切り発車ノー・丹後与謝市民集会」でも、府教委が進める高校再編計画に対し、疑問・不安、批判など多様な意見が表明され、私たちは「高校再編見切り発車に反対します」という集会アピールを採択しました。

府教委が進める高校再編計画は、丹後の子ども達に確かな学力を保障するものとは考えられません。また保護者の負担が増え、地域づくりにとっても逆行するものと言わざるを得ません。

このようなことから、私たちは次の事項の実現を求めます。

【 要 望 事 項 】

- 一、丹後地域での「学舎制の導入」「分校統合・フレックス化」案を撤回すること。
- 一、「本校継続」「普通科教育の充実」という保護者の意見を尊重し、小規模化のメリットが最大限生かされるよう必要な予算を講じること。

名 前	住 所

取扱い団体 丹後・与謝の高校再編問題を考える会
 連絡先：奥丹後地方教職員組合（〒629-2503 京丹後市大宮町周枳1767 ☎0772-64-3233）
 与謝地方教職員組合（〒626-0043 宮津市惣401-4 ☎0772-22-0321）

丹後地域の府立高校の今後について

～中学生と保護者の皆さんへ～

【平成29年7月】

京都府教育委員会は、三つの大きな方針のもとで、丹後地域の府立高校をより魅力あるものにしていきます。丹後地域の中学生と保護者の皆さんに府立高校を選んでいただく際の資料の一つとして、お伝えしたいことをまとめましたので、参考としてください。

平成32年度から実施します

1 地域に学校を残し、学校・生徒・地域をつなぐ新たな高校として、「学舎制」を導入します。

宮津高校と加悦谷高校、網野高校と久美浜高校がそれぞれ「学舎」として、連携した教育活動を実施していきます。

海洋高校、峰山高校は現状を維持しつつ、さらに教育内容を充実していきます。

2 柔軟な教育を行う「京都フレックス学園構想」に基づく学校づくりを進めます。

宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の募集はなくなりますが、現峰山高校弥栄分校校地で、3校の教育内容を継承・発展させた、京都フレックス学園構想に基づく高校をつくります。

3 地方創生に取り組む大学や地元企業などと連携した教育活動「地域創生教育推進プログラム」を実施します。

お伝えしたいポイント

◎「学舎制」は今ある高校が、

新しい学びの場として生まれ変わるための制度です。

現在ある校舎やグラウンドを活かすため、

地域から高校はなくなり、充実した教育活動を行います。

◎現中学3年生、中学2年生の皆さんは、

現在ある高校に入学し、入学した高校で卒業できます。

◎現中学1年生の皆さんは、

「学舎制」の高校や京都フレックス学園構想に基づく高校を受検できます。

◎「学舎」は学科に関わらず、それぞれの「学舎」ごとに志願できます。

志願していない「学舎」に入学することはありません。

なお、平成30年度入学者選抜については学科の変更予定はありません。

(正式には平成29年8月末頃に募集定員と一緒にお知らせします。)

皆さんが疑問に思われることにお答えします

Q1. 「学舎」の募集定員はどのくらいになるのですか、また、入学者選抜は、どのような制度になるのでしょうか。

A1. 「学舎」の募集定員は、現在の高校の募集定員を基本として、「学舎」ごとに設定します。ただ、子どもの人数は年々減ってきていますので、そのことも考慮します。

入学者選抜は現在の制度を基本とし、「学舎」ごとに選抜を実施しますので、希望しない「学舎」に振り分けられることはありません。

平成32年度の募集定員や入学者選抜制度の詳細を正式に決定し、公表するのは平成31年8月下旬となる予定です。

Q2. 宮津高校と加悦谷高校、網野高校と久美浜高校は「学舎」となることで、学校名が変更されたり、校歌・校章・制服などが変更されたりするのでしょうか。

A2. 宮津高校と加悦谷高校、また網野高校と久美浜高校で名称をどのようにしていくのか、今後府教育委員会として検討していきます。その際には、地元地域の皆さんのご意見も聞きながら進めていきたいと考えています。校歌・校章・制服などもこれからの検討となりますが、生徒の皆さんが魅力を感じられるものになるよう考えていきます。

Q3. 「学舎」同士で部活動や特別活動を一緒にするというイメージがしにくいのですが、例を教えてください。

A3. 例えば、団体競技の部活動は生徒数が少なくなると、1つの高校では競技人数が集まらず、公式大会に出場できない場合が出てきますが、2つの「学舎」を合わせると人数が足りて公式大会に出場できるなど、部活動で「できること」の可能性が広がります。

日常の練習は基本的に「学舎」ごとに行い、土曜日や夏休みなどに2つの「学舎」の生徒が集まり合同練習を行うことも考えられます。

また、体育祭や文化祭を合同で行ったり、研修旅行で2つの「学舎」の生徒と一緒に活動するといったことも考えられます。

Q4. それぞれの「学舎」はどのような特色があり、どのような教育が行われるのか、いつ頃わかりますか。

A4. 基本的には現在それぞれの高校が持つ特色を継承・発展させていきますが、今年度中には「学舎」の学科がどうなるのかをお伝えし、教育内容の詳細については平成30年秋頃にお伝えする予定です。
その際には説明会も開催したいと考えています。

Q5. 峰山高校弥栄分校校地にできる京都フレックス学園構想に基づく高校はどのような学校になるのですか。

A5. 「柔軟な教育システム・若年者の社会的自立を支援する教育」を実践する高校ですが、現在の3分校それぞれの良さを発展・継承していきたいと考えています。
峰山高校弥栄分校校地では、農業教育や家政教育に必要な施設設備とこれまで培ってきたノウハウがあるため、そうした財産もしっかりと活用していきたいと考えています。

Q6. 宮津高校伊根分校や細野高校間人分校は平成32年度には募集がなくなりそうですが、それまでに入学している生徒はどうなるのですか。

A6. 現在の分校に入学した生徒は、現在の分校で卒業することになります。ただし、分校の在籍生徒数が極めて少人数になった場合、学びの場や教育環境を保障していくため、在籍生徒や保護者と相談しながら、柔軟に対応していきたいと考えています。

Q7. 地域創生教育推進プログラムはどのようなことをしていくのですか。

A7. 既に現在の高校で一部取り組んでいますが、地元企業や自治体でのインターンシップ、また、府教育委員会が協定を結んでいる様々な大学の教授、学生と連携した学習活動を行うなど、高校生が地域に愛着と誇りを持てる教育実践を進めていきます。

☆今後も、府教育委員会は検討の進捗状況を随時お知らせしていきます。

丹後地域の府立高校の進路選択にあたって

中学3年生の皆さん	志願できる府立高校は現在ある高校です。皆さんが高校3年生時に入学してくる1年生は、海洋高校、峰山高校のほかは「学舎制」又は京都ﾌﾞｯｸｽ学園構想に基づく高校の1年生になります。 (ただし、伊根分校、間人分校には1年生の入学はありません。)
中学2年生の皆さん	志願できる府立高校は現在ある高校です。皆さんが高校2年生時に入学してくる1年生は、海洋高校、峰山高校のほかは「学舎制」又は京都ﾌﾞｯｸｽ学園構想に基づく高校の1年生になります。 (ただし、伊根分校、間人分校には1年生の入学はありません。)
中学1年生の皆さん	志願できる府立高校は海洋高校、峰山高校のほかは「学舎制」の高校または京都ﾌﾞｯｸｽ学園構想に基づく高校になります。皆さんが高校1年生時の先輩は現在ある高校の生徒です。

【今後の各府立高校の入学生と在校生の関係】

学校名	現在の学年	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
宮津高校	中3生	→ 宮津高校1年	宮津高校2年	宮津高校3年		
	中2生		→ 宮津高校1年	宮津高校2年	宮津高校3年	
	中1生			→ A高校a学舎1年	A高校a学舎2年	A高校a学舎3年
加悦谷高校	中3生	→ 加悦谷高校1年	加悦谷高校2年	加悦谷高校3年		
	中2生		→ 加悦谷高校1年	加悦谷高校2年	加悦谷高校3年	
	中1生			→ A高校b学舎1年	A高校b学舎2年	A高校b学舎3年
網野高校	中3生	→ 網野高校1年	網野高校2年	網野高校3年		
	中2生		→ 網野高校1年	網野高校2年	網野高校3年	
	中1生			→ B高校c学舎1年	B高校c学舎2年	B高校c学舎3年
久美浜高校	中3生	→ 久美浜高校1年	久美浜高校2年	久美浜高校3年		
	中2生		→ 久美浜高校1年	久美浜高校2年	久美浜高校3年	
	中1生			→ B高校d学舎1年	B高校d学舎2年	B高校d学舎3年
海洋高校	中3生	→ 海洋高校1年	海洋高校2年	海洋高校3年		
	中2生		→ 海洋高校1年	海洋高校2年	海洋高校3年	
	中1生			→ 海洋高校1年	海洋高校2年	海洋高校3年
峰山高校	中3生	→ 峰山高校1年	峰山高校2年	峰山高校3年		
	中2生		→ 峰山高校1年	峰山高校2年	峰山高校3年	
	中1生			→ 峰山高校1年	峰山高校2年	峰山高校3年
宮津高校 伊根分校	中3生	→ 伊根分校1年	伊根分校2年	伊根分校3年	伊根分校4年	
	中2生		→ 伊根分校1年	伊根分校2年	伊根分校3年	伊根分校4年
	中1生			伊根分校としての募集はありません。		
網野高校 間人分校	中3生	→ 間人分校1年	間人分校2年	間人分校3年	間人分校4年	
	中2生		→ 間人分校1年	間人分校2年	間人分校3年	間人分校4年
	中1生			間人分校としての募集はありません。		
峰山高校 弥栄分校	中3生	→ 弥栄分校1年	弥栄分校2年	弥栄分校3年		
	中2生		→ 弥栄分校1年	弥栄分校2年	弥栄分校3年	
	中1生			弥栄分校としての募集はありません。		
京都ﾌﾞｯｸｽ学園構想 に基づく高校	中1生			→ フレックス1年	フレックス2年	フレックス3年

お問い合わせ：〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府教育庁指導部高校教育課 ☎075-414-5857

